

青梅市文化財ニュース

第 2 3 号

平成 元年 9月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

三田氏の史跡を訪ねる

出合い・ふれあい “あいあいハイク”のご案内

青梅市文化財保護指導委員会・同体育指導委員協議会・同青少年委員協議会が協力して上記のタイトルのもとにイベントを催すことになりました。児童・生徒からご老人に至るまで、気軽に参加でき、しかも青梅市のすばらしさを発見していただくというものです。同時に社会教育に属する委員会が統一して充実した事業を推進していこうという、新しい方向を目指した試みでもあります。

○日時 11月12日(日) 小雨決行

○集合場所・時間 JR宮の平駅北側広場、午前9時～9時45分

○解散場所・時間 市立第4小学校、午後3時ごろ

○コース 宮の平～矢倉台(説明)～風の子太陽の子広場(昼食)～

天寧寺(説明)～勝沼城跡(説明)～第4小学校

※ 全コース約8キロのハイクです

《三田氏と青梅》 現在、郷土博物館や市内の本屋さんなどで販売されている“青梅歴史物語”(平成3年発刊・700円)によって、三田氏について調べてみました。

‘三田氏のおこり’ 三田氏を名のる豪族が鎌倉時代から青梅、奥多摩地域を支配していたことは知られていますが、そのルーツやどのような経過をたどってこの地方の支配者に成長していったのかはよくわかりません。

‘三田氏の勢力・背景’ 青梅、奥多摩を中心とした『^{そまのほ}杣保』と呼ばれた地域を支配した三田氏は、木材や漆などの山林資源を供給、管理することを通して勢力を強めてきたのではないかと考えられています。とくに漆は鎧などの製作にはなくてはならない軍需物資として重要なものでした。

‘三田氏の盛衰’ 塩船観音寺の仏像修理や天寧寺への銅鐘の寄進などに見られるように1500年ごろ全盛を誇った三田氏も、永禄年間(1560年代)北条氏照軍の攻撃で二俣尾の辛垣落城とともに滅亡してしまいます。今回の“あいあいハイク”では、これら三田氏の史跡のいくつかを訪ね、興亡の跡をたどります。

(文責 川鍋幸三郎)